

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【四半期会計期間】	第51期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	旭情報サービス株式会社
【英訳名】	ASAHI INTELLIGENCE SERVICE CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 博
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内1丁目7番12号
【電話番号】	03(5224)8281(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役財務経理部長兼IR室長 英保吉弘
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内1丁目7番12号
【電話番号】	03(5224)8281(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役財務経理部長兼IR室長 英保吉弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 旭情報サービス株式会社 横浜支社 (横浜市神奈川区金港町1丁目4番) 旭情報サービス株式会社 中部支社 (名古屋市中区錦2丁目3番4号) 旭情報サービス株式会社 大阪支社 (大阪市北区中之島2丁目2番2号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第2四半期累計期間	第51期 第2四半期累計期間	第50期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高 (千円)	4,491,353	4,554,467	8,995,375
経常利益 (千円)	192,946	178,955	419,712
四半期(当期)純利益 (千円)	120,019	104,803	234,443
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	733,360	733,360	733,360
発行済株式総数 (千株)	8,264	8,264	8,264
純資産額 (千円)	5,997,062	5,980,037	5,999,656
総資産額 (千円)	7,787,108	7,715,640	7,805,252
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	15.40	13.45	30.08
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	15.00	15.00	30.00
自己資本比率 (%)	77.0	77.5	76.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	161,145	116,552	241,412
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	70,145	101,571	70,391
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	116,925	116,832	235,231
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	2,843,423	2,703,778	2,805,630

回次	第50期 第2四半期会計期間	第51期 第2四半期会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	6.98	9.55

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要や経済政策効果等を背景に緩やかな回復基調にあったものの、欧州財政問題の長期化、新興国の成長減速、円高・デフレ基調の継続等により、不安定な状態で推移しました。

情報サービス産業におきましては、スマートフォン関連やクラウドサービス等の需要により、企業等の情報化投資は一部で回復傾向にあるものの、全般的には抑制姿勢は継続しており、依然として厳しい経営環境にあります。

このような情勢の下、当社では、引き続き一括アウトソーシングの推進強化に経営資源を集中するとともに、顧客ニーズへの迅速な対応による案件獲得に注力し、技術者稼働率の向上に努めました。

この結果、売上高は前年同期比で微増となったものの、当社の主要な運用業務に対する顧客のコストダウン要請は根強く、収益性は低下いたしました。今後は、引き続き案件ごとの採算性向上に取り組み、収益性の向上を図ってまいります。

当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高4,554百万円（前年同期比1.4%増）、経常利益178百万円（前年同期比7.3%減）、四半期純利益104百万円（前年同期比12.7%減）となりました。

部門別の営業状況は、次のとおりであります。

#### (ネットワークサービス)

運用業務の効率化やコストダウンの要請は引き続き厳しかったものの、一括アウトソーシングでの受注拡大を図るとともに、当事業への技術者投入を積極的に推進した結果、売上高は3,235百万円（前年同期比6.3%増）となりました。

#### (システム開発)

ERP（業務統合パッケージ）関連の案件獲得に努めたものの、組込み関連業務等の案件が低調に推移した結果、売上高は940百万円（前年同期比11.0%減）となりました。

#### (システム運用)

汎用系の運用やオペレーション業務は、市場の縮小とともに価格下落が継続していることから、汎用系技術からネットワーク系技術への移行に継続して取り組んだ結果、売上高は377百万円（前年同期比3.5%減）となりました。

#### (2) 財政状態の状況

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ89百万円減少し、7,715百万円となりました。

流動資産は41百万円減少し、5,572百万円となりました。主な要因は、売掛金41百万円の減少によるものであります。固定資産は47百万円減少し、2,143百万円となりました。主な要因は、前払年金費用21百万円の減少や敷金及び保証金12百万円の減少、投資有価証券10百万円の減少によるものであります。

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ69百万円減少し、1,735百万円となりました。

流動負債は35百万円減少し、1,655百万円となりました。主な要因は、未払費用7百万円の増加、預り金6百万円の増加があったものの、未払法人税等25百万円の減少、未払金15百万円の減少、未払消費税等9百万円の減少があったことによるものであります。固定負債は前事業年度末に比べ34百万円減少し、80百万円となりました。

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ19百万円減少し、5,980百万円となりました。主な要因は、四半期純利益104百万円の計上があったものの、配当金116百万円の支払いによる減少やその他有価証券評価差額金7百万円の減少があったことによるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ101百万円減少し、2,703百万円となりました。なお、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は116百万円（前年同期は161百万円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益174百万円、売上債権の減少41百万円、法人税等の支払額94百万円によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は101百万円（前年同期は70百万円の獲得）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出100百万円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は116百万円（前年同期は116百万円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額116百万円によるものであります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において当社が対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた事項はありません。

### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### (6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び中長期的な会社の経営戦略

前事業年度における有価証券報告書の「第2 事業の状況」の「4 事業等のリスク」及び「7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（4）中長期的な会社の経営戦略」に記載の内容から変更はありません。

### (7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社の経営陣は、現状の事業分析及び入手可能な情報に基づき、最善の経営方針を立案し経営に当たるよう努めております。経営者の問題認識と今後の方針につきましては、前事業年度における有価証券報告書に記載の事項から重要な変更はありませんが、引き続き市場動向の変化や顧客ニーズの迅速な把握と対応に取り組むとともに業務の効率化を推し進めてまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,729,000
計	20,729,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,264,850	8,264,850	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	8,264,850	8,264,850	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年9月30日	-	8,264,850	-	733,360	-	623,845

## (6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
旭情報サービス社員持株会	東京都千代田区丸の内1丁目7番12号	853	10.33
大槻 幸子	横浜市青葉区	390	4.73
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	374	4.53
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	196	2.37
竹田 和平	名古屋市天白区	180	2.18
小野 一夫	京都市伏見区	170	2.06
大槻 武史	東京都新宿区	159	1.93
大槻 剛康	愛知県豊田市	140	1.71
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	139	1.68
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2番1号	137	1.67
計	-	2,740	33.16

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式が474千株(5.75%)あります。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 474,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,656,000	7,656	-
単元未満株式	普通株式 134,850	-	-
発行済株式総数	8,264,850	-	-
総株主の議決権	-	7,656	-

## 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
旭情報サービス株式会社	東京都千代田区丸の内 1丁目7番12号	474,000	-	474,000	5.74
計	-	474,000	-	474,000	5.74

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,305,630	3,303,778
売掛金	1,287,445	1,246,044
有価証券	700,450	700,200
前払費用	44,126	45,406
繰延税金資産	266,436	266,562
その他	9,929	10,080
流動資産合計	5,614,018	5,572,074
固定資産		
有形固定資産	79,553	76,470
無形固定資産	8,768	13,580
投資その他の資産		
投資有価証券	804,784	794,754
長期預金	500,000	500,000
賃貸不動産	106,706	105,046
敷金及び保証金	226,287	213,673
保険積立金	389,386	389,386
前払年金費用	64,122	42,244
繰延税金資産	4,907	2,251
その他	6,716	6,158
投資その他の資産合計	2,102,910	2,053,514
固定資産合計	2,191,233	2,143,566
資産合計	7,805,252	7,715,640



	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	430,000	430,000
未払金	76,654	61,077
未払費用	385,752	393,070
未払法人税等	97,969	72,712
未払消費税等	71,825	62,787
預り金	31,304	37,622
賞与引当金	585,000	590,000
その他	12,796	8,234
流動負債合計	1,691,302	1,655,504
固定負債		
リース債務	3,382	3,038
役員退職慰労引当金	110,910	77,060
固定負債合計	114,292	80,098
負債合計	1,805,595	1,735,603
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	733,360	733,360
資本剰余金	624,519	624,519
利益剰余金	5,097,897	5,085,849
自己株式	355,263	355,327
株主資本合計	6,100,512	6,088,401
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	21,089	28,596
土地再評価差額金	79,767	79,767
評価・換算差額等合計	100,856	108,363
純資産合計	5,999,656	5,980,037
負債純資産合計	7,805,252	7,715,640

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	4,491,353	4,554,467
売上原価	3,635,864	3,702,575
売上総利益	855,488	851,891
販売費及び一般管理費	674,866	683,634
営業利益	180,621	168,256
営業外収益		
受取利息	7,955	6,315
受取配当金	3,692	3,489
賃貸不動産収入	4,167	3,965
助成金収入	1,444	3,043
雑収入	1,752	996
営業外収益合計	19,012	17,810
営業外費用		
支払利息	3,165	3,167
賃貸不動産費用	3,521	3,822
雑損失	-	121
営業外費用合計	6,687	7,111
経常利益	192,946	178,955
特別利益		
投資有価証券売却益	33,243	-
特別利益合計	33,243	-
特別損失		
投資有価証券売却損	27,680	10
投資有価証券評価損	5,920	4,880
固定資産除却損	25	57
特別損失合計	33,625	4,947
税引前四半期純利益	192,564	174,007
法人税等	72,544	69,204
四半期純利益	120,019	104,803

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	192,564	174,007
減価償却費	8,555	8,917
長期前払費用償却額	3,843	3,540
貸倒引当金の増減額(は減少)	600	252
賞与引当金の増減額(は減少)	85,000	5,000
有形固定資産除却損	25	57
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	7,062	33,850
投資有価証券評価損益(は益)	5,920	4,880
投資有価証券売却損益(は益)	5,562	10
受取利息及び受取配当金	11,648	9,805
支払利息	3,165	3,167
賃貸不動産収入	4,167	3,965
賃貸不動産費用	3,521	3,822
売上債権の増減額(は増加)	14,446	41,400
その他の資産の増減額(は増加)	10,547	20,974
未払費用の増減額(は減少)	15,449	7,317
未払消費税等の増減額(は減少)	5,427	9,037
その他の負債の増減額(は減少)	1,036	11,865
その他	654	261
小計	321,003	204,562
利息及び配当金の受取額	9,406	10,164
利息の支払額	3,204	3,213
法人税等の支払額	166,059	94,962
営業活動によるキャッシュ・フロー	161,145	116,552
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,371	6,023
無形固定資産の取得による支出	-	6,384
投資有価証券の取得による支出	213,022	100,000
投資有価証券の売却による収入	276,675	99,990
定期預金の預入による支出	-	100,000
賃貸不動産の賃貸による収入	4,167	4,048
賃貸不動産の管理による支出	1,720	2,162
敷金及び保証金の差入による支出	2,143	3,055
敷金及び保証金の回収による収入	7,559	12,014
投資活動によるキャッシュ・フロー	70,145	101,571
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の増減額(は増加)	542	64
配当金の支払額	116,383	116,424
リース債務の返済による支出	-	343
財務活動によるキャッシュ・フロー	116,925	116,832
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	114,364	101,851
現金及び現金同等物の期首残高	2,729,058	2,805,630
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,843,423	2,703,778

【会計方針の変更等】

当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。 なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
投資その他の資産		
敷金及び保証金	13,000千円	12,400千円

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
役員報酬	64,626千円	58,853千円
給与	224,854千円	221,295千円
賞与引当金繰入額	59,598千円	53,177千円
退職給付費用	6,239千円	7,281千円
法定福利費	39,603千円	40,407千円
家賃	139,108千円	132,826千円
減価償却費	8,133千円	8,597千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	3,143,423千円	3,303,778千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	300,000千円	600,000千円
現金及び現金同等物	2,843,423千円	2,703,778千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	116,897	15.00	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月28日 取締役会	普通株式	116,885	15.00	平成23年9月30日	平成23年11月25日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	116,850	15.00	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月29日 取締役会	普通株式	116,849	15.00	平成24年9月30日	平成24年11月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)及び当第2四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

当社の事業は、情報サービス事業ならびにこれらの附帯業務の単一事業であります。したがって、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益 (算定上の基礎)	15円40銭	13円45銭
四半期純利益(千円)	120,019	104,803
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	120,019	104,803
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,792	7,789

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成24年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 配当金の総額 116,849千円
- (2) 1株当たりの金額 15円00銭
- (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成24年11月27日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払を行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

旭情報サービス株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 荒井 憲一郎

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 林 由佳

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている旭情報サービス株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第51期事業年度の第2四半期会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、旭情報サービス株式会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。